

平成23年度 第2回芦屋市立義務教育諸学校教科用図書採択協議会 会議録

日 時	平成23年7月26日(火) 13:00~17:00
場 所	北館2階 第3会議室
出席者	委員長 長谷川 則光 副委員長 目黒 強 委 員 笠原 清次 木下 新吾 丹下 秀夫 欠席委員 今泉 亜紀 事務局 北野 章 野村 実貴 岡田 力
会議の公開	■ 非公開  〈非公開とした理由〉 教科書の採択の公正を確保しながら、具体的な出版社名をあげてかつ活発に意見交換をする必要があるため非公開とする。
傍聴者数	0 人

1 会議次第

(1) 報告事項

- 調査研究専門員報告

(2) 協議事項

- 平成24年度使用中学校教科書の採択について
- 平成24年度特別支援学級で使用する一般図書の採択について

2 提出資料

- 資料1 平成23年度特別支援学級における一般図書の使用状況
- 資料2 平成24年度使用教科用図書調査研究報告書
- 資料3 教科用図書および一般図書見本

3 審議経過

上記の協議事項について、調査研究専門員より報告を受け、以下の質疑応答を行った。(回答は調査専門員によるもの)

(1) 国語・書写

- 国語の第一候補の出版社は各分野の作品にどのような特徴があるのか。  
(回答) 説明文を書き下ろしとしているため、1年生でおさえた内容を2年で深めるなど、子どもの発達段階に応じた系統性を重視している。
- 書写が現行から変更するのはどのような理由によるのか。  
(回答) 3年間の合冊となって系統立てて学習できる。楷書と行書の対比表があるなど構成がしっかりしている。
- 調査報告書の観点はどのように決めたのか。  
(回答) 生徒が学力をつける上で重要と思われる点を観点とした。
- 書写の第一候補の報告書にある「多様なアイデア」とは何か。  
(回答) のぼり、石碑、看板はすべて文字という観点に立ち、実用的で多彩な例が挙げられている。

(2) 社会科（地理，歴史，公民，地図）

- 教科書に資料が豊富であることは大きな候補理由なのか。  
（回答）資料の点数に大きな差がある。生徒が自ら資料を活用する能力が強調される中で，文章表記だけでは不十分である。今回の候補は資料が大きく見やすくなった。
- 歴史と公民が現行から変更することについて補足はあるか。  
（回答）現行の継続か変更かというよりも，写真が大きく細部が見られるなど資料の充実度が判断材料として大きかった。
- 地図を授業で併用することの利点は何か。  
（回答）地図を使うか教科書の資料を使うかは授業展開により判断が分かれるところだが，地図を利用すると生徒は意図しない所に目がいく特長がある。

(3) 数学

- 新学習指導要領に照らし合わせて，第一候補と第二候補の差はどんなことか。  
（回答）実体験をともなっていて感じられる教材が第一候補には多くある。
- 思考力をつけるという点から第一候補が優れているのか。  
（回答）その通りである。
- 指導要領との関連の記述を報告書に盛り込むようお願いしたい。また候補2社の他社との違い及び第一候補と第二候補の差を具体的に報告いただきたい。  
（回答）後日別途報告する。

(4) 保健体育

- 体育編と保健編のバランスということが候補理由に挙げられているが具体的にはどんなことか。  
（回答）他社は量的なバランスが充分取れているとは言えない。
- 第二候補との差を具体的に報告いただきたい。  
（回答）後日別途報告する。

(5) 音楽（音楽一般・器楽合奏）

- カラーユニバーサルデザインに充分配慮されているか。色の濃淡だけで区別するところは，子どもの色覚によっては不十分ではないか。  
（回答）色と文字を併記してどちらでも区別できるようになっている。
- 報告書の様式について他教科と統一の上，再度報告をお願いしたい。  
（回答）そのようにする。

(6) 理科

- 実験方法と結果の示し方という観点から第一候補はすぐれているということだが，第二候補との差は何か。  
（回答）生徒にとって見やすく分かりやすい視点が第一候補にはある。
- 新学習指導要領との関連において各社の工夫の差が記述されていないのはなぜか。  
（回答）各社工夫されているところで大きな差がないためである。
- 観点として挙げたものにはそれに応じた評価があるように報告いただきたい。  
（回答）そのようにする。

#### (7) 美術

- 報告書にある「生活の中の表現活動」とは何か。  
(回答) 例えば「病院に絵を飾るには」ということを考えさせるような環境デザインが挙げられる。
- 報告書には第一候補には鑑賞教材の偏りがなくバランスがよいとされているが、それは時代的なものか、生徒作品と作家作品のバランスのことか。  
(回答) 後者のバランスである。時代についてはどの出版社もバランスよく網羅している。
- 学年の発達段階をふまえていることの具体的な例を報告書に記述いただきたい。  
(回答) そのようにする。

#### (8) 技術家庭科(技術分野・家庭分野)

- 技術分野では、指導要領のAからDのどの内容を重視するのか。  
(回答) 均等にウエイトを置くことになっているので、第一候補が最もそれに適合している。
- 家庭分野では、指導要領のAからDの指導順について、Aからの方が指導計画を立てやすいとされているが、生徒にとってもその順が望ましいのか。  
(回答) 生徒にとって学びやすい順も同様である。

#### (9) 英語

- 候補二社で第一候補が優れている点として最も大きな点は何か。  
(回答) 入門期に小学校との関連を重視している点である。
- 新指導要領との関連は候補の教科書のどのような点に表れているか。  
(回答) 語い数が900語から1,200語となること及び4技能のバランスが重視される点である。語いについてはどの出版社もカバーしているが、4技能がバランスよく指導できる点については、第一候補の出版社が特に優れている。

#### (10) 特別支援学級用一般図書

- 前回採択された冊数よりも増加しているのはなぜか。  
(回答) 昨年度の151冊から174冊に増加した。県で新たに採択されたものがあるためである。
- 県で採択された174冊を市でもそのまま採択しているのはなぜか。  
(回答) 在籍する児童生徒の幅広い障がいの特性に対応するため、できるだけ選択肢は広く残したいためである。

### 4 結論

- (1) 中学校教科書調査研究報告書について一部、第1候補を優先する理由等を追加する必要がある、今後当該の専門員は事務局を通じて委員長に提出する。
- (2) 委員長は報告書に基づき答申書を市教育委員会に提出する。

## 5 参考

### (1) 平成24年度使用中学校用教科書【第1候補のみ示す】

国語（光村図書出版），書写（光村図書出版），社会[地理的分野]（日本文教出版），社会[歴史的分野]（東京書籍）社会[公民的分野]（日本文教出版），地図（帝国書院），数学（東京書籍），理科（新興出版社啓林館），音楽[一般]（教育芸術社），音楽[器楽合奏]（教育芸術社），美術（日本文教出版），保健体育（学研教育みらい），技術家庭[技術分野]（開隆堂出版），技術家庭[家庭分野]（教育図書），英語（東京書籍）

### (2) 平成24年度使用小学校用教科書【採択替えなし】

国語（光村図書出版），書写（光村図書出版），社会（教育出版），地図（帝国書院），算数（新興出版社啓林館），理科（新興出版社啓林館），生活（東京書籍），音楽（教育芸術社），図画工作（日本文教出版），家庭（東京書籍），保健（学研教育みらい）

### (3) 特別支援学級で使用する教科書

- ① 通常の学級で使用する教科書（障がいの実情によっては下学年本とする）
- ② 特別支援学校用 文部科学省著作本（☆印本）
- ③ 別添資料で選択した「けんちゃんとおそぼう1 のってのって」他174点の一般図書
- ④ 拡大図書